

まちひとしごと

Vol. 34

北海道旅客鉄道(株)倶知安駅

駅長 ^{こんだ}根田 ^{しゅういち}修一 さん

お客さまとは一期一会 より良いおもてなしで



明 治37年10月15日、北海道鉄道が開通、倶知安駅が営業を始めて、今年で115年を迎える。

今年6月より倶知安駅長を務める根田修一さんは、室蘭市で生まれ育った。子どもの頃から飛行機や船に乗ることが好きで、父親が当時の日本国有鉄道（以下、国鉄）の車掌を務めていたこともあり、電車もまた身近な乗り物だったという。高校卒業と同時に国鉄に就職し、札幌や千歳での勤務を経て、現在に至る。

今も昔も鉄道は、私たちの移動手段の一つ。その手段の選択肢が

増えたことにより、地域によっては廃線となる鉄道も少なくない。しかし、倶知安駅の利用者は増加傾向。その目的は通勤や通学、レジャーなどさまざま。

「駅や電車の中で過ごす時間が、旅の良い思い出の一つになればと思っています。日頃から、駅員一人一人と積極的にコミュニケーションを取り合い、チームワークを大切にすることで、お客さまの安全はもちろん、より良いおもてなしを心がけています」

子どもやお年寄りなど、車を運転しない人にとって、公共交通機関は日常に欠かせない足となっている。

一方で、長年車を運転してきた人にとつては、電車が身近な乗り物ではないかもしれない。全国的に高齢ドライバーによる交通事故が後を絶たない中で、運転に不安があるお年寄りには鉄道を利用してもらいたいと根田さんは話す。

「普段、電車に乗り慣れていない方からすると、切符を買うことでさえ不安を感じるかもしれません。どのような方でも安心して乗車できるよう、私は、全てのお客さまが初めての利用だという意識で接しています」

115年前、倶知安町に鉄道が開通したことによって、人や物の行き交う範囲は広がり、住民の暮らしや町並みは、次第に変わっていった。

そして2030年度末、新幹線駅の開業は、さらにこの町を変えることになるだろう。

「私は仕事の経験上、新幹線駅の開業による町の変化をいろいろな所で見してきました。高速交通機関の整備は、住民の暮らしにおけるさまざまな可能性を広げるものであり、より多くの人に町の魅力を知ってもらう絶好の機会です。倶知安町がそのチャンスを生かせるかどうかは、開業までの準備次第なのではないでしょうか」

町内では、駅周辺の整備やトンネル工事などが進み、開業に向けた準備がすでに始まっている。

「駅長として新幹線に関する仕事に携われる喜びを感じています。そして、新幹線駅の開業によって、この町が今後どのように成長していくのか期待しています」